

臨南寺を開いたお坊さん

高
文
卷
之
三

萬南英種禪師ものがたり

今年は三百五十回大遠忌

臨南寺は、正保二年（一六四五）
鈴木重成公をご開基、萬南英種禪師
をご開山として、重成公の兄鈴木正
三師の協力のもとに、曹洞宗の寺院
として開かれました。今年、ご開山
の萬南英種禪師の三百五十回大遠忌
に当たります。

れるための隠し田が発覚して女性・子どもまで処刑されそうになつたのを女性・子どもだけはと助命したりします。

やがて 宣永十八年（一六四二）重成公四十六歳のとき初代の天草一代官に任命され、島原の乱で荒廃した天草復興に力を注ぎます。

そして、重成公は、これも正三輪と親交のあつた萬南英種禪師を瑞巌寺に訪ねます。深山幽谷の中で、水と木の実だけで修行に励む英種禪師と会い、「攝津住吉に松林の美しいところがあります。ぜひそこで養生してほしい」と招聘しました。

中華珪法が臨南庵
という草庵を建て
て座禪三昧に過ご
していました。重
成公は、天草島民
の教化のためお寺を建てるこ^トを決意
その指南役として中華珪法を天草に

十一月十日(日)開催!



龍木正三師

中華珪法が臨南莊



總目



特別ご招待！

アルゼンチン
ノイギヤ

I
NGO EMOTION

回憶記

アルゼンチン物産展
午後一時～七時三十分

午後一時一七四二十分



高商空間裡的

ご開基もご圓山も、お寺を創つた人のことですが、ご開基は土地や建物などの器を用意するいわばプロデューサーで、ご圓山はそこに魂を吹き込むお坊さんのことを行います。

鈴木重成公は三河（現在の愛知県）の生まれで、慶長十九年（一六一四）より家康に仕え、大坂冬の陣・夏の陣を戦い、大坂代官として赴任してきます。大坂代官のとき、税金を逃

肥後大慈寺の大焉広椿に印可されます。吉祥寺、能登總持寺に抜擢されますが、叔父の源室の死とともに起雲寺に戻ります。六年間門を閉ざして坐禪三昧に耽ります。さらに八王子舟田山などで厳しい修行を重ね、各地を遍歴、丹波瑞巖寺を再興しました。

二人の出会い

当時の臨南寺は、正三師の心友の僧

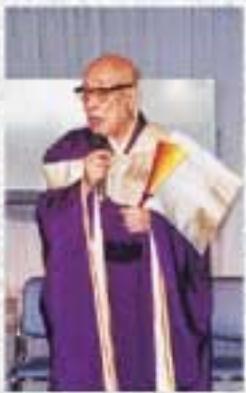
聞いた道元禅師が中國から帰つて最初の提点とされたお寺です

冬、雪冴えて涼しかりけり

◎ 松山

臨南寺住職

渡邊 剛毅



ただいま永平寺では、宗祖道元禅師の七百五十回大遠忌が行われております。九月二十八日の法要では、私が、永平寺住職の不老闘禅師のご指导により、百二歳の禅師に代わって、導師を務めさせていたぐことになりました。

一生に一度巡り合えるかどうかわからぬ大役を仰せつかり、有難いことであります。この慶びは私一人のものではなく、当山の檀信徒全員の慶びです。当日は八十名の方が私とともにバスを連ねてお参り、「涼しかりけり」と楽しむ心。なものにも押しつぶされることのないしなやかで、しかも強い心。それを私もいつも持つていてほしいです。

りいたします。まことに感謝に堪えません。

道元禅師が詠まれた和歌に

春は花 夏ホトトギス

秋は月

冬雪冴えて

涼しかりけり

道元禅師が詠まれた和歌に名により、百二歳の禅師に代わって、導師を務めさせていたぐことになりました。

というのがあります。大自然の中であるがままに修行することの大切さを歌に託されています。その中でも私が特に惹かれるのが、下の句です。

永平寺の冬の寒さは並大抵のものではありません。その厳しい寒さを「雪冴えて」と愛で、柱に抱きつくと念願がかなうというもので、野口英世のお母さんも、英世の火傷の治療と出世を願って、この柱にすがったといいます。

かつては子どもからお年寄り

まで、格別の用がなくともふらつとお寺に立ち寄ったものでした。

臨南寺もそんなお寺にできたら良いなと思っています。まだまだ若輩者ですが、今後ともよろしくお願ひいたします。

人がたくさん集まる
場所に

臨南寺副住職 大澤正道

■特別万灯祭奉納コンサート
十一月十日(日)

詳しいことは、前ページに紹介されています。



■マトリ合同法要「紅葉祭」

十一月十日(日)午後一時～三時

専門家による葬儀・相続・遺言などのご相談コーナーを開設いたします。

■親子坐禅会

十二月二十二日(日)午後一時～三時

定員三十名 無料(要予約)

坐禅の後、エトづくりを行います。
冬休みの思い出を作りませんか?



臨南寺 行事予定

■弁天さま祈禱会

平成十五年一月十五日(水)

午前十時～十一時

みなさまの厄払い福を招く法要を行います。甘酒の振る舞いもござります。

